

学校でキャッチでき、 対応できる仕組みを

大阪府立大学 山野則子

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>

本日のポイント

- 子どもの置かれた環境～見えない貧困
- 必要な子ども・家庭に必要なサービスを届けられるシステム作りを～全数把握できる学校の活用を
- 教育課程への提言

子どもたちの置かれた環境

- 生活保護率全国平均 1.64% (平成25年1月)
- 就学援助全国平均 15.64% (平成24年度)
- 母子家庭全国平均 全世帯の3% (平成22年)



- 例えば、ある自治体のスクールソーシャルワーカーが入った学校では(山野2006)・・・
 - 生活保護率 約6%
 - 就学援助率 約50%
 - 母子家庭率 28.9%

見えない！ 貧困

＝支援が届かない実態・・・

- 6畳1間で7人暮らす父子 文科省(2014)
(奨学金周知率:資料配布61.9%、HP掲載54.9%)
- 被災地の例(震災給付で生保0 見えなくなる)
- 車上やネットカフェで過ごす母子
教育ネグレクト、虐待通告必要(国民の義務)

学校から見える姿は・・・

遅刻が多い

不登校、怠学

見えなくなる一例 (福島県相双保健福祉事務所2013)

● 被災地の例
生保廃止になる

● 九社連児童養
護施設協議会
2013年調査

① 高校進学：入所児約93% > 家庭復帰児男子約72%、女子約83%

② 中退率：入所児約13% (H18~22平均) > 一般2.1%

③ 中卒離職率：入所児75% (H18~22平均) > 一般62.1%

(表4) 生活保護申請・開始・廃止件数の推移

区分	平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	申請 件数	開始 件数	廃止 件数	申請 件数	開始 件数	廃止 件数	申請 件数	開始 件数	廃止 件数	申請 件数	開始 件数	廃止 件数	申請 件数	開始 件数	廃止 件数
町村															
広野町	2	2	4	4	4	1	4	2	1	0	0	19	1	1	1
檜葉町	12	11	6	7	7	7	6	5	5	0	0	33	0	0	3
富岡町	14	12	5	18	18	12	12	8	6	0	0	79	1	1	3
川内村	0	0	0	5	5	3	5	4	1	0	0	13	1	1	8
大熊町	7	8	5	9	9	9	11	8	10	0	0	38	0	0	13
双葉町	4	1	2	9	7	3	9	7	6	0	0	19	0	0	6
浪江町	17	10	11	18	20	12	21	22	13	0	0	106	0	0	8
葛尾村	0	0	0	2	1	0	2	1	0	0	0	6	0	0	0
双葉郡計	56	44	33	72	71	47	70	57	42	0	0	313	3	3	42
新地町	2	0	3	1	2	1	4	4	5	2	1	5	5	3	4
飯館村	7	5	3	7	5	2	12	10	3	0	0	32	0	0	3
相馬郡計	9	5	6	8	7	3	16	14	8	2	1	37	5	3	7
合計	65	49	39	80	78	50	86	71	50	2	1	350	8	6	49

※開始件数には、前年度に申請がなされ4月に開始決定したものを含む。

● 大阪の例

(大阪の子どもたち」大阪人権教育研究協議会、2014年)

① 高校進学：府内全体97.1%、生保91.6%、

(2013.3) 加配配置校90.1%、在日94.4%

② 中退：調査校総計3.1%、生保8.5%、

(2012.3) 在日7.1%

見えない！孤立

= 支援が届かない実態…

- 子育ての孤立や不安が子育て層の3割から半数
- 不適切な養育につながる可能性大

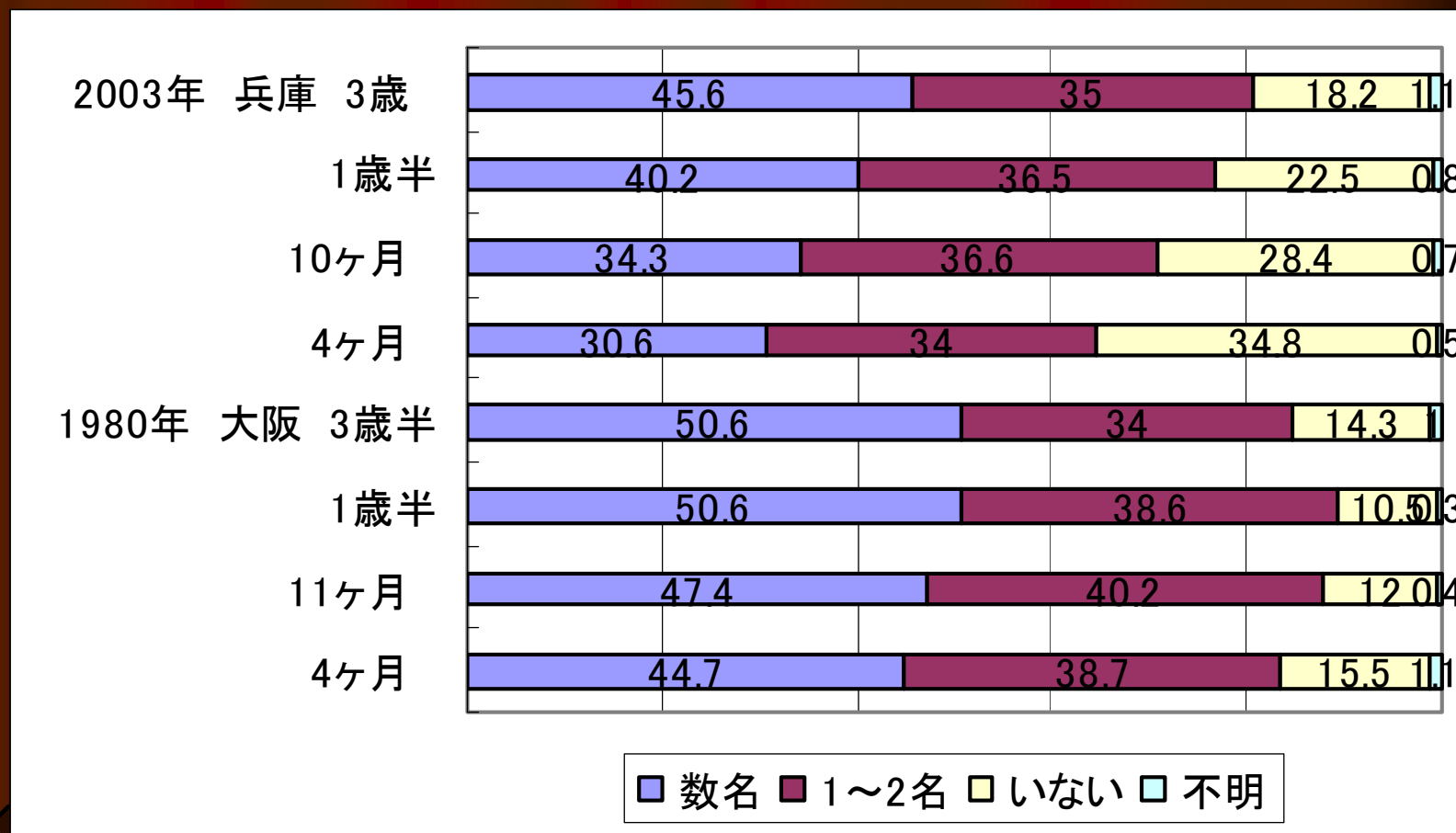
調査) 保健所での健診時に行った大規模調査「大阪レポート」と同じ質問項目によって、23年後の調査として比較検討を行った。

「大阪レポート」とは、大阪府下のある市(当時、人口12万人)に、1980年生まれの全数児(約2000人)を対象に実施された育児の実態調査

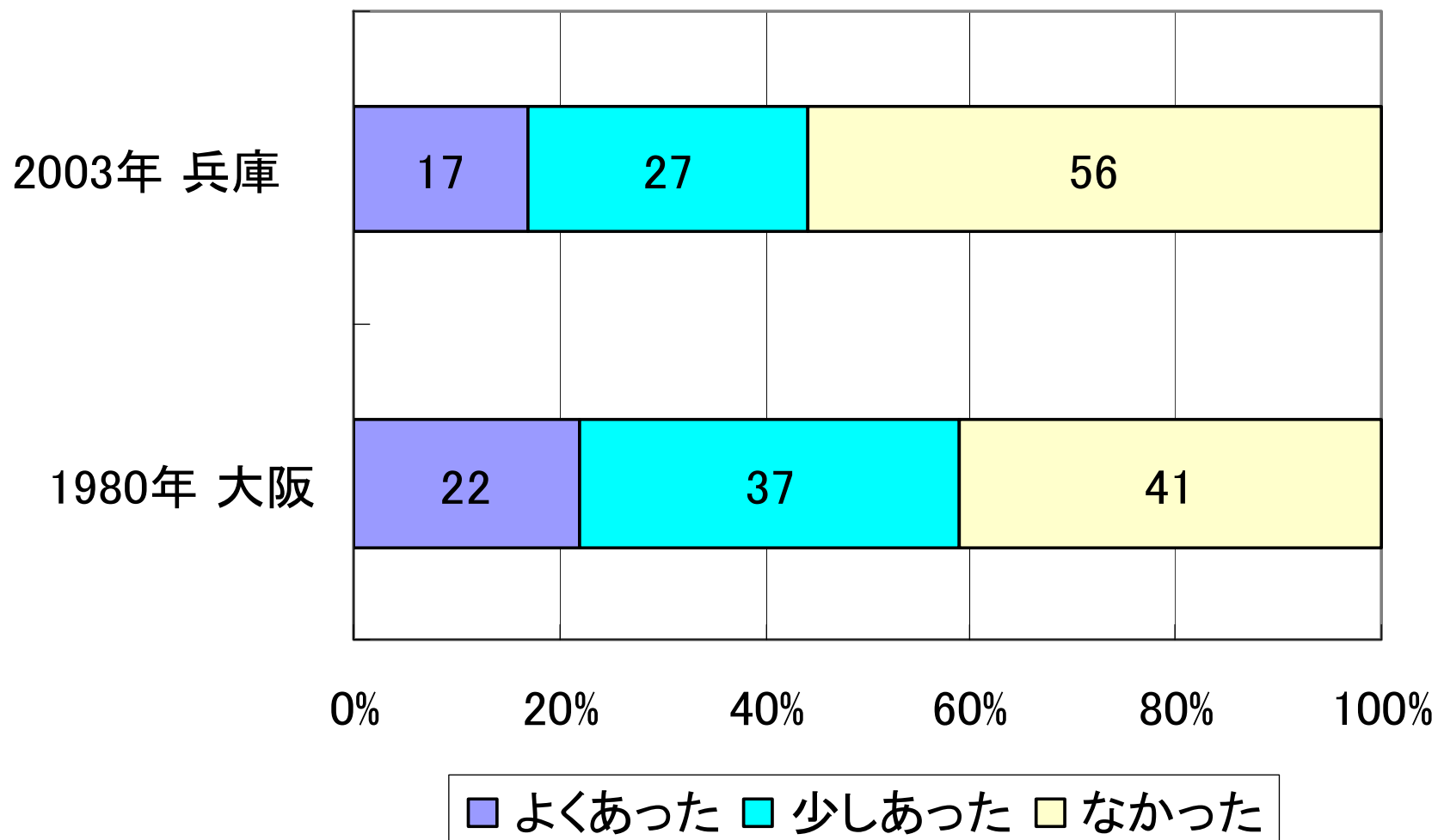
* 平成14～16年度厚生科学研究(3年継続)「児童虐待発生要因の解明と児童虐待への地域における予防的支援方法の開発に関する研究」 主任研究者 服部祥子(2004)

資料：調査結果)

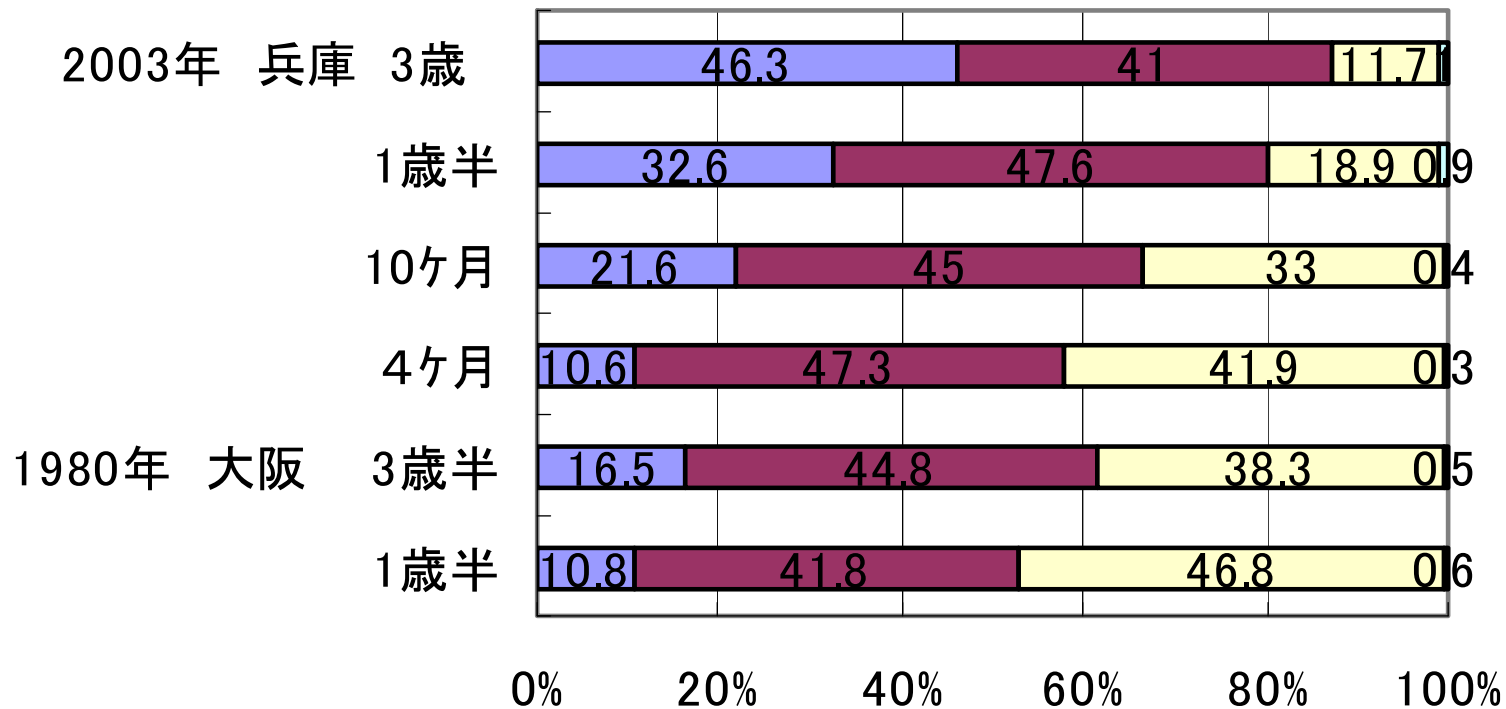
近所にふだん世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする人はいますか



自分の子どもが生まれるまでに、他の小さいお子さんに食べさせたり、おむつを替えたりしたことはありますか

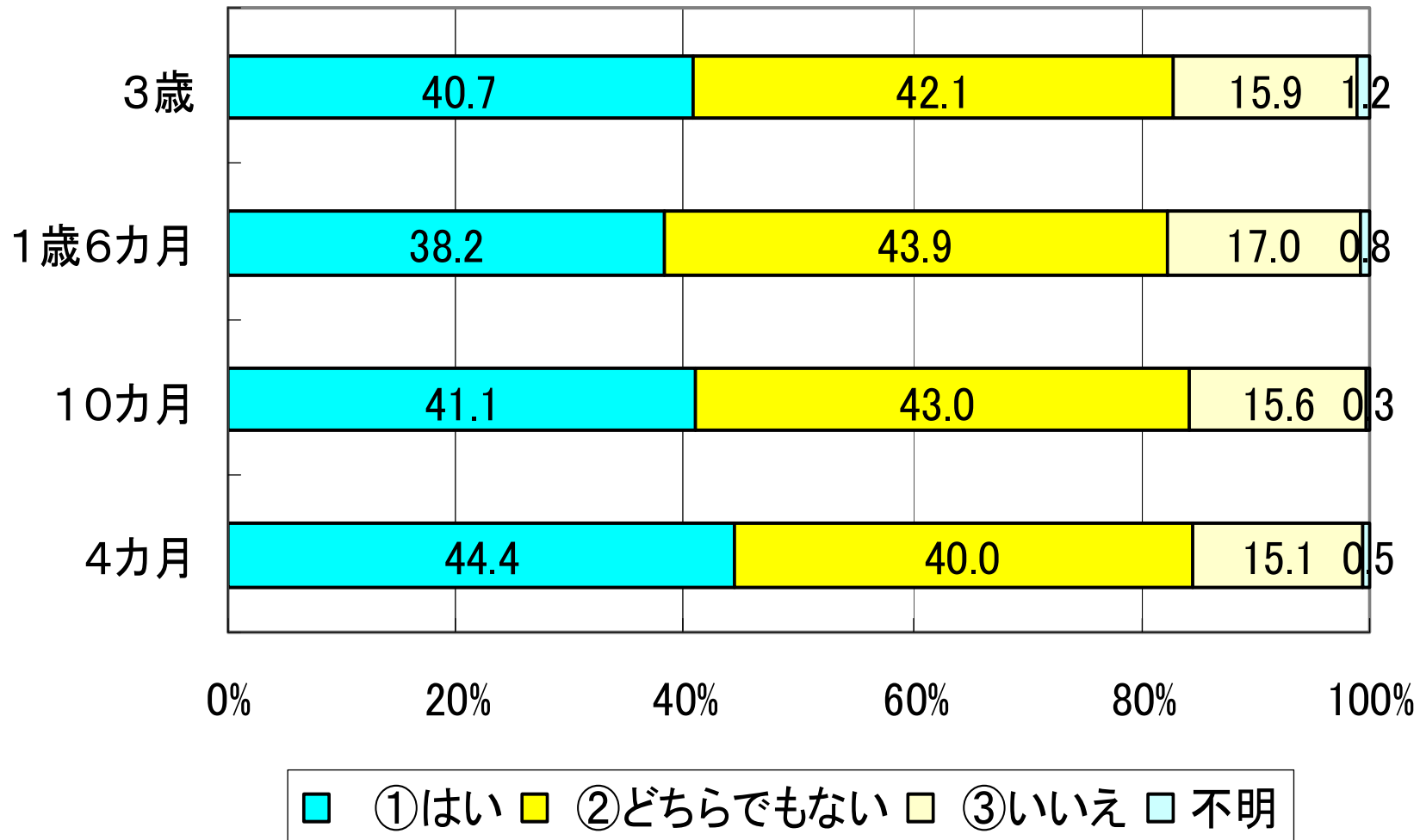


子育てで、いろいろなすることは多い ですか



■ はい
 ■ どちらでもない
 ■ いいえ
 ■ 不明

他の人があなたの育児をほめたり 批判したりするのは気になりますか



<第1次調査>

孤立・不安の増大、評価気になる、「比較」傾向→30%から半数の人⇒**孤立が見えにくい!**

⇒視点を変える必要性

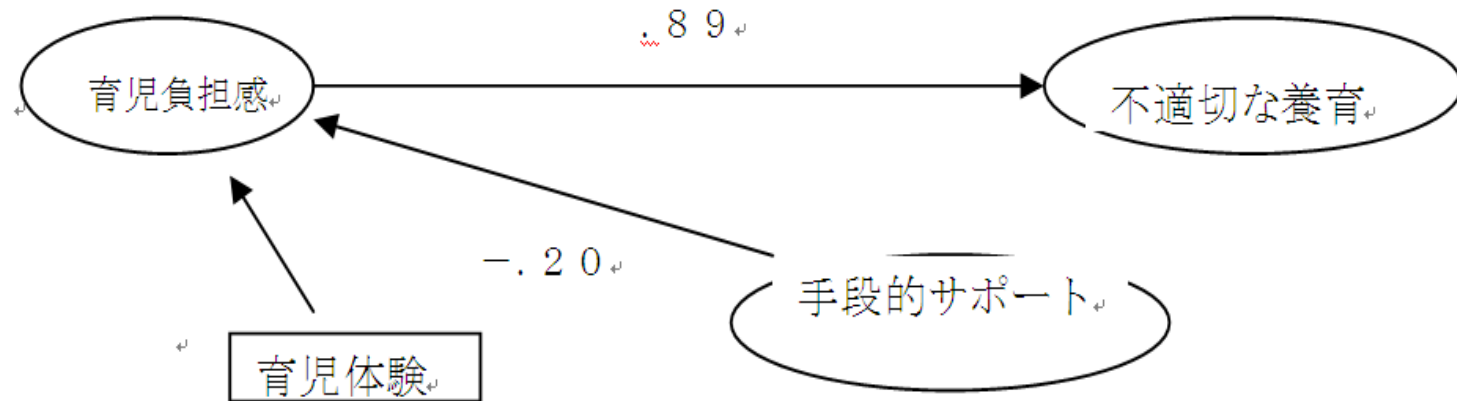
孤立（確認・気付く場がない）

⇒児童虐待に直結

モデルがない（地縁、血縁の希薄化）

自信が持てない

<第3次調査>（育児負担感の軽減に寄与するもの）



*手段的サポートとは

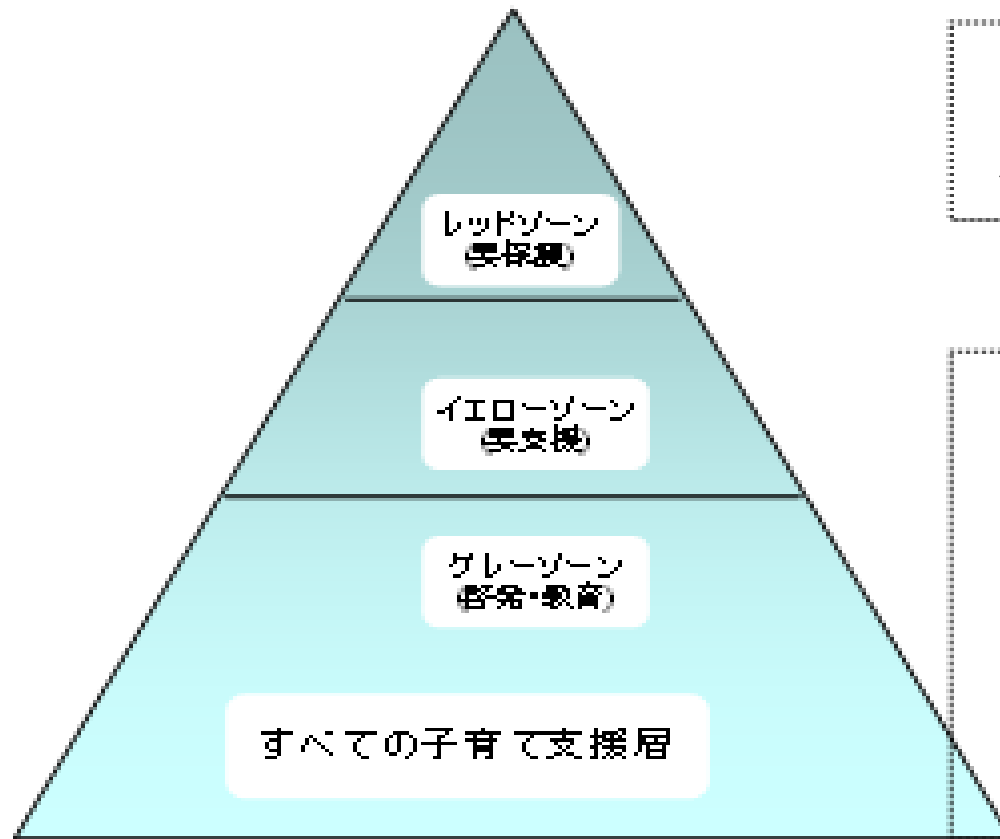
留守の間見てもらう

買い物の間、見てもらう

病院の付き添いの代理 等

扱う対象領域と機関の位置

～相談とネットワークに機能不全～



.....児童相談所対応(緊急)
すべての子どもから見ると約1%
施設入所は全相談件数の約10%
児童福祉司もちケース過多
=1人平均58.23(2010年)

.....市町村の児童相談部署
丁寧に関に歩む支援

.....学校や地域
自然体でアウトリーチでき、
教える・伝える、つなぐ必要大

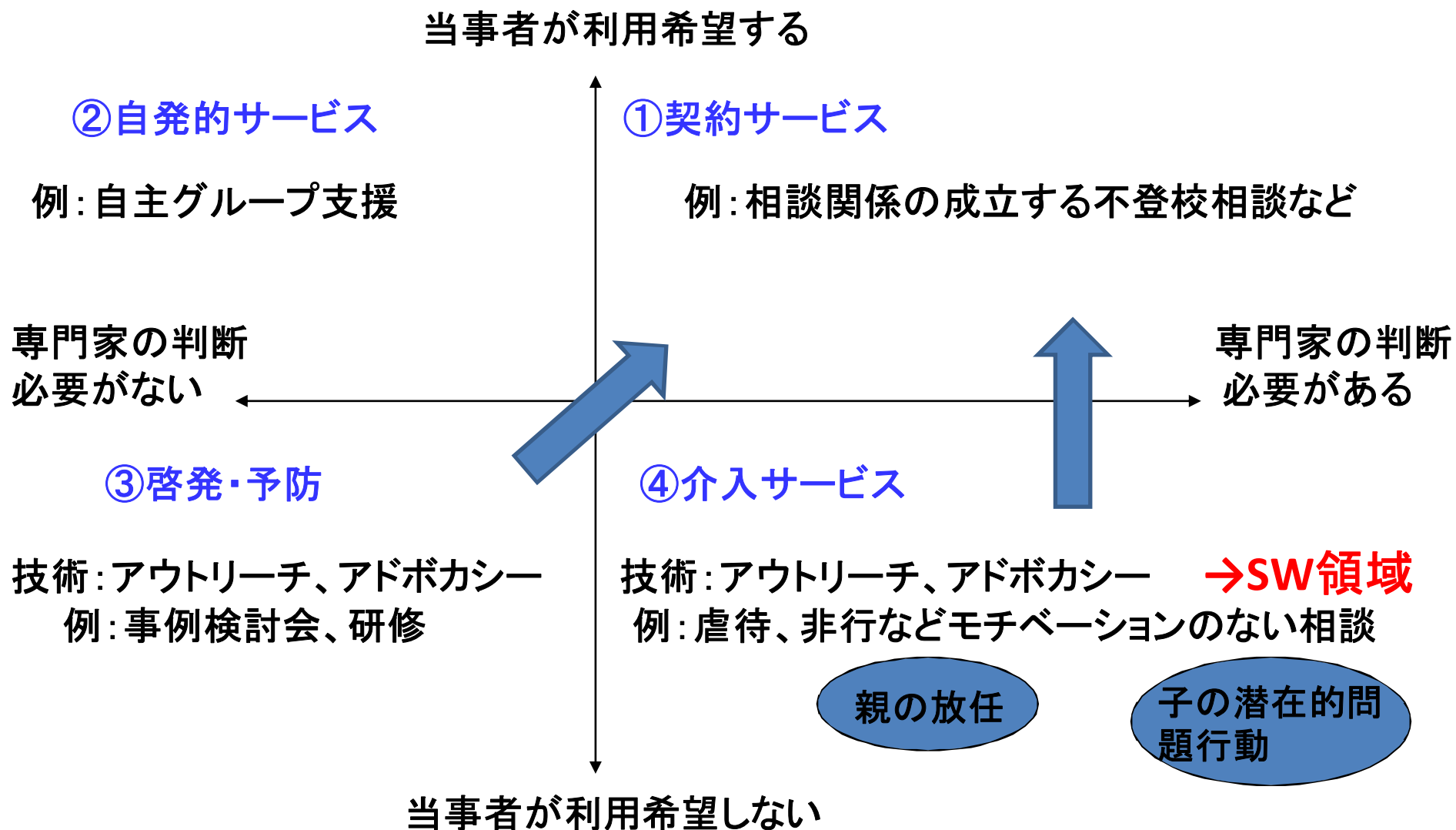
見える風景の違い(山野2009)

- 児童相談所は学校との連携がおおむね良好ととらえているのが30.4%にあたり、機関連携回数を平均2.96回と報告している(高橋2004)。
- 学校は全員の子どもが対象＝相談には全校児童数の0.9%、福祉事務所、児童相談所の2.4～4.0%(山野2009)

＝母数が一般児童・生徒になる学校や地域機関など生活レベルの関係者の視点と、何らかの問題事例が母数となる児童相談所など援助専門職の視点の違い

- SSWの可能性＝学校は変革相手、アウトリーチ必要

見えない事例(③)、学校が困っている(④)領域



学校現場の実態 (山野2008)

< 科研による調査: 大阪府内小中の教師8626人に配布し、3089人の回収(回収率47.14%) >

- 親に対して: 「持ち物がそろわない76.7%」「子どもの宿題をみていない74.1%」「教材等の支払いが滞る70.5%」「子どもの生活面の指導に協力が得られない66.2%」「服装や食事をきちんと用意していない66.1%」
- 子どもに対して: 「他人が傷つくようなことを平気で言う88.8%」「友達との交友関係がうまく取れない83.9%」「何度も指導するが伝わらない78.5%」「ちょっとしたことにすねたりキレたりする78.1%」

全数把握可能な学校に支援システムを

- 地域によっては貧困、孤立が3割→貧困や孤立が表面的には見えない→決して、ごく一部の問題ではない。
- 学校は子どもの状況を全数把握できる。
- 学校は、生活に密着した、子どもや家族にとって大変身近なところであることである。
- 学校は見えない貧困、相談につながらない家族をキャッチでき、地域や家庭教育支援等と連携して寄り添い介入できる可能性がある。

→学校に①キャッチできる、②様々な資源を活用して丁寧に情報提供できる仕組みを作る、教員の認識を作る(教職課程科目に社会福祉を！)

=SSWの可能性